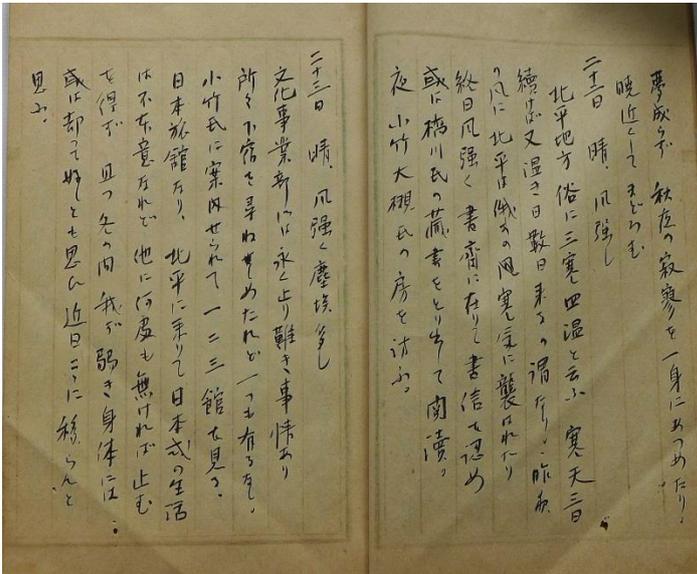


## 目加田誠先生の『北平日記』 3

前回到引き続き、『北平日記』の中からエピソードを紹介します。

### 【留学初期のすまい】

留学当初は中華民国の軍人の家だった建物で荒れるにまかせたような部屋に泊まり、翌日から不本意ながら日本式の旅館一二三館（ひふみかん）に落ち着きます。しかし、旅館のため費用がかかるので、下宿を探します。人の紹介で、中根さんという方の家を月 50 円で借ります。奥さんのます代さんの病のため節約して療養費を作ろうとしたのです。日当たりは悪いけれど心地はよさそうと記しています。



左ページ 4 行目に「一二三館」が見える。

### 【お茶】

お茶は、夏は龍井（ロンジン）、冬は香片が良いと勧められました。龍井（ロンジン）は江南の杭州の西湖周辺で生産される中国で最も代表的な緑茶の銘柄です。香片はジャスミン茶のことで、茶葉にジャスミンの花びらをまぜたものです。誠先生は昭和 8 年 12 月 12 日に香片を半斤買いました。半斤は今の 250 グラムで、価格は 1 円 20 銭でした。その 10 倍もするものもあるそうです。

### 【タバコ】

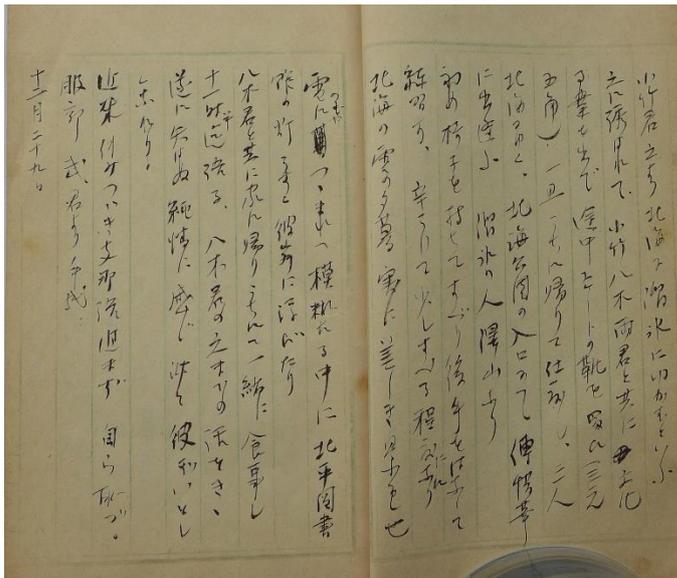
タバコはルビークエン（ルビークイーン）という銘柄のタバコを買っています。アメリカ製高級タバコです。昭和8年10月28日、11月14日など購入したことが書かれています。

### 【銭湯】

昭和9年2月6日には「今夜、湯に入る。湯水少なくて心地悪し。早く暖かくなりて、街の湯場にゆきたし。日本の銭湯こそ恋しけれ。」とあり、あまり気にいらなかったことが記されています。

### 【余暇の過ごし方—スケート】

昭和8年12月19日に当地の遊びの一つとして、溜氷（こおりすべり：スケートのこと）をする人が多いことを記していますが、12月28日には、小竹君と八木君という友人とともにスケート靴を買って（価格三元五角）、北海公園にすべりに行っています。はじめは慣れないので、椅子を持って滑り出しますが、手を離してできるようになったと書いています。翌日そのせいで身体が痛くなったと言いながら、その翌日の30日、そして大晦日の31日にもスケートをしています。相当気に入ったのでしょう。滑った北海公園は紫禁城（現在故宫博物院）の西にあって、その南には中南海があり、現在中国指導部の要人が住んでいるところです。



右ページ3行目に「スケートの靴」と記されている。

## 【日本との関わり】

昭和8年12月23日に「今日、我国にては皇子御誕生あらせられたり。国家の安泰、慶賀之に如くものなし。・・・」とあり、後の平成天皇（現在の上皇）の誕生を知って祝っています。

昭和9年元旦の記載は「桂君も来りて共に雑煮を祝い公使館に到りて御真影を拝す。（中略）今年を以て我已に三十一歳也。今年こそは誰も誰も健康に向い希望に充ちし一年を送るべし。」と自分と家族の健康を祈るとともに、克己勉勵を誓っています。

昭和9年2月6日には「ますよより『照葉狂言』と菊池寛の『勝敗』を送り来たれり。『照葉狂言』は余の最も愛好する小説なり。（中略）『照葉狂言』をよむ。売られゆく小六が最後の舞をまはむとするあたり、ひしひしと胸に迫る名文なり。所詮文学は自国のものを味ふにまさることなきか。」とあります。

『照葉狂言』は泉鏡花（1873～1939）の小説です。明治29年に読売新聞に連載され、後に単行本が出版されました。

日記から窺われることは、当初留學生活のうち、すまい、銭湯、食事（前回掲載）などはあまり気に入らなかったようです。一方、大変気に入ったのはスケートです。身体が痛くなっても何回も通っています。先生はスポーツ好きな方だったようですね。